

■ アジサイ・・・



集会所周辺のアジサイが日増しにその色を深めています。入居当初にはありませんでしたから、その後、どなたかが挿し木か苗を植えられ、ここまで株が育ったのでしょう。「七変化」と言われるように、咲いているうちにだんだん色が変わっていきます。そのためか花言葉が「移り気」なのは愉快です。そんなアジサイ、原産は日本です。しとしと雨が降る庭に咲くアジサイの花は、まさに日本の梅雨の風景です。

アジサイといえば19世紀の中頃、この植物を初めて学界に発表したシーボルトのことを思い出します。当時の学名は、“ハイドランジア・オタクサ”と言い、それは、彼が長崎に滞留していた頃の愛人「お滝さん（オタクサン）」の名に由来しています。何とも微笑ましいエピソードです。

もっともこのことについて、有名な牧野富太郎は、自ら主宰する『植物研究雑誌』に、



シーボルトハあぢさゐノ和名ヲ私ニ変更シテ我が閨デ目じりヲ下ゲタ女郎ノお滝（源氏名ハ其扇そのぎ）ノ名ヲ之レニ用キテ大ニ其花ノ神聖ヲ流シタ、脂ギッタ醜イ淫売婦ト艶麗ナ無垢ノあぢさゐ、此清浄ナ花ハ長ヘニ糞汁ニ汚サレテシナッタ、ア、可哀想ナ我があぢさゐヨ

と、やや品性を欠く論調で非難しています。ところが、牧野自身も亡き妻への思慕から、新種のササに「スエコザサ」と命名していることから、多分に矛盾した言動とも言えるでしょう。

最近、園芸店でよく見かける「ハイドランジア（西洋紫陽花）」は、シーボルトによってヨーロッパにもたらされた品種が改良され逆輸入されたものだということになります。ちなみに、「ハイドランジア」は「水の器」の意味です。